

第5章 【家庭と連携し、子供が自ら取り組む家庭学習〈子供編〉】実践例

家庭学習記録カードを活用した学びの自主性を伸ばすための取組 ～山鹿市立平小城小学校～

○「めざせ！！家庭学習名人」カードの活用

めざせ！！家庭学習名人

★3年生40分 4年生50分 5年生60分 6年生70分が目標です。課題が早く終わったら、自分で考えて取り組みましょう。

10月17日（月曜日）		
家での時間わり	取り組んだ時間	家の人の印
1 漢字スギル	10分	
2 計算	10分	
3 国語	10分	先生の印
4 自主学習	10分	自主学習の時間をはかろう！ 10分をきっちりやろう！
5 音楽	10分	目標時間達成
6	10分	
合計時間	50分	めざせ！！

10月18日（火曜日）		
家での時間わり	取り組んだ時間	家の人の印
1 漢字	10分	
2 計算	10分	
3 自主学習	10分	先生の印
4 音楽	10分	自主学習の時間をはかろう！ 10分をきっちりやろう！
5	10分	目標時間達成
6	10分	
合計時間	50分	めざせ！！

10月19日（水曜日）		
家での時間わり	取り組んだ時間	家の人の印
1 漢字	10分	
2 国語	10分	
3 自主学習	10分	先生の印
4 自主学習	10分	自主学習の時間をはかろう！ 10分をきっちりやろう！
5 音楽	10分	目標時間達成
6	10分	
合計時間	50分	めざせ！！

【めざせ！！家庭学習名人カード】

平小城小学校では、放課後に学童を利用している児童が多くいるため、この実態を踏まえ、家庭以外でも自主的に学習に取り組むことができるよう、自分で時間割を立てる「めざせ！！家庭学習名人」カードを活用しています。各学年の目標時間は10分×学年＋10分としています。

1、2年生7名は担任が、3年生以上の児童16名は担任と管理職がカードや自学ノートで取組状況を把握し、コメント等を書いたり声かけをしたりしています。

この取組を通じて、児童の振り返りの欄に、家庭学習の時間の確保が上手になったり、自主学習の取組への達成感を感じたりしているといった感想がたくさん見られるようになってきています。

第5章 【家庭と連携し、子供が自ら取り組む家庭学習〈子供編〉】実践例

「家庭学習の計画づくり（矢部プランニングタイム）・自主学習（自学）」の取組 ～山都町立矢部中学校～

○「小中自学内容表」を活用した自主学習の取組

○家庭学習の計画づくり（矢部プランニングタイム）の時間の設定

【小中自学内容表「矢部中」より一部抜粋】

《矢部中》

【プランニングタイム（25分間）の実施】

- ・ 帰りの会とあわせて行う。
- ・ プランニングシートに家庭学習の計画を書き込み、その計画に沿って、自主学習を進める。
- ・ 教師は全教室につき、家庭学習計画の確認と取り組み方の助言をする。また、教科担当者（国語、英語、数学）が各教室を回り、質問対応や補充指導をする。
- ・ 各学級で学習リーダーを選出し、生徒間で教え合いをする。

【自主学習の内容】

（1、2年生）翌日の朝自習のテストに向けた学習と、授業の復習。

（3年生）受験に向けた進路対策学習と、授業の復習。

【プランニングの様子】



【集会時の様子】



年度初めに自学の取り組み方について、町内の小中学校で作成した「小中自学内容表」（左表参照）を活用して説明し、生徒が系統性を理解して自学に取り組むことができるようにしています。

また、家庭学習の計画づくりの時間を帰りの会で設け、教師が「無理なく適度な量か」「個に応じた計画になっているか」などについて、助言することで、生徒が家庭学習をプランニングできるようにしています。

参考になる自学ノートを掲示したり、全校集会時に異学年で自学ノートを見せ合ったりしています。さらに、中学生の自学ノートは、出身小学校にも掲示しています。

生徒は、毎日どのような家庭学習を行うかを考え、意欲的に取り組んでいます。

第5章

【ICTを活用した家庭学習】実践例

1人1台端末を有効活用し、授業と家庭学習をリンクさせる取組 ～宇城市立河江小学校～

- 学習支援ソフトを利用したつまづきの多い問題の分析と家庭学習の課題の作成
- 1人1台端末を活用した家庭学習の送信と提出

単元別	熊本県学力・学			
5年				
①整数と小数のしくみをまとめよう (整数と小数)	□24	5年¥H24¥1(4).pdf		
②直方体や立方体のかさの表し方を考えよう (直方体や立方体の体積)	□24	5年¥H24¥3(2).pdf	□24	5年¥H
	□26	5年¥H26¥5(5).pdf	□27	5年¥H
	□28	5年¥H28¥5(3).pdf	□29	5年¥H
③変わり方を調べよう(1) (比例)				
④かけ算の世界を広げよう (小数のかけ算)	□24	5年¥H24¥1(1).pdf	□25	5年¥H
	□27	5年¥H27¥1(1).pdf	□28	5年¥H
	□30	5年¥H30¥1(1).pdf		
⑤わり算の世界を広げよう (小数のわり算)	□24	5年¥H24¥1(2).pdf	□24	5年¥H
	□25	5年¥H25¥6年H25¥1(1).pdf	□26	5年¥H
	□27	5年¥H27¥1(2).pdf	□28	5年¥H
	□29	5年¥H29¥1(2).pdf	□29	5年¥H

【河江小学校問題バンクより抜粋】
※熊本県学力・学習状況調査(ゆうチャレンジ)の問題は、H30年度までのものは、自由に活用することができます。

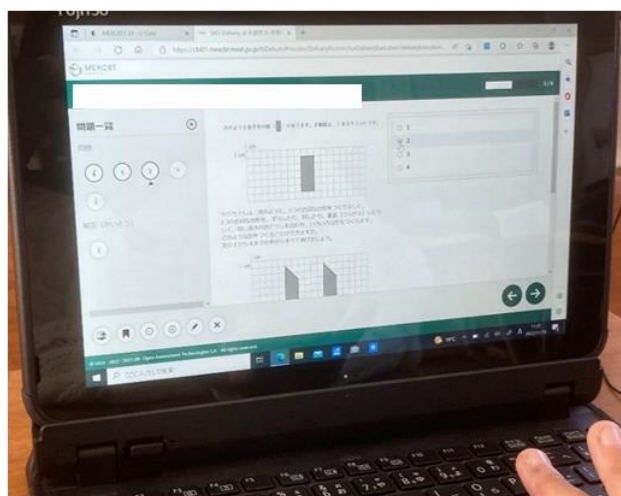
- P：授業日の朝、児童から送信された解答データを確認し、間違いが多かった問題を授業で扱う時間を計画します。
- D：授業で学び直し、再度定着確認します。また、全学調や県学調の問題バンク(左図：教員作)の中から関連する問題を教師が指定し、児童にアクセスさせ、取り組ませるようにします。
- C：放課後、児童のつまづきが多かった問題を児童の解答一覧から分析し、家庭学習のデータを作成し児童の端末に送信します。単元導入前の場合は、予習課題としてデータを送信することもあります。
- A：児童は各自、家庭で課題に取り組み、終了した段階でデータを提出します。

第5章

【ICTを活用した家庭学習】実践例

学びの主体性や持続性を確保するためにICT端末を活用した取組 ～南関町立南関第二小学校～

■ MEXCBTやデジタルドリルを活用した課題の選択



【MEXCBTを活用して、課題を選択し、それに取り組む様子】

MEXCBTやデジタルドリルを活用し、教員が課題を一斉配信したり、児童が自ら課題を選んで取り組んだりしています。教員は学習の定着を図るために、授業に関連した問題や、全国学力・学習状況調査の問題などを選んで配信しています。

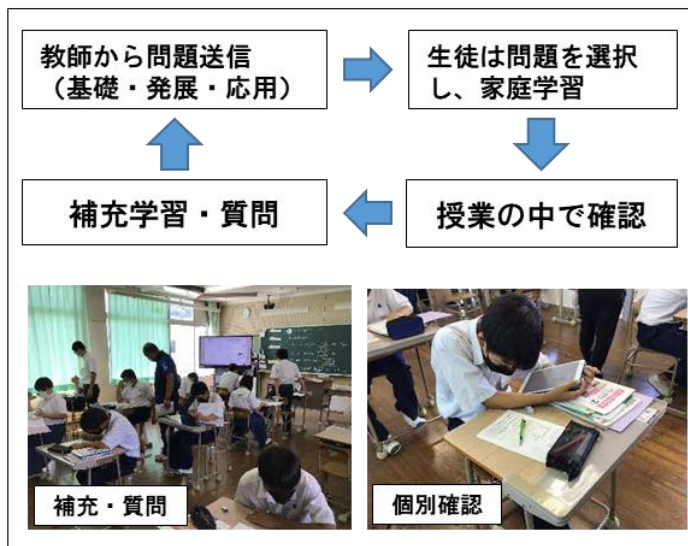
どの学年の問題にも取り組めるので、児童は既習事項の苦手な分野を遡って復習をすることもできました。

また、保護者が取組状況を確認する機能を利用することで、家庭と連携を図りながら、児童の学習習慣形成を促す取組の推進につながっています。

第5章 【ICTを活用した家庭学習】実践例

ICT端末を活用し、自主的な学習態度の育成と基礎基本の定着を目指した家庭学習 ～山鹿市立鹿北中学校～

○熊本県学力・学習状況調査に類似した問題や個に応じた問題（基礎・発展）の自己選択



課題となっている家庭学習の習慣化、定着への課題解決のためにICT端末を活用し、問題を配信しています。生徒は自分に合った課題を選択し、学習しています。問題内容は基礎基本が中心ですが、熊本県学力調査の問題に類似したものも用意し、個に応じた内容を提供しています。

授業の中で確認するとともに、理解できなかった分野については、質問する時間の確保等を行い、生徒の学習に対する意欲の喚起につなげています。

第5章 【ICTを活用した家庭学習】実践例

ICT端末を活用し、家庭と学校が連携して課題に取り組む工夫 ～山鹿市立米野岳中学校～

○ICT端末を活用した家庭と学校が連携した家庭学習の実施
(家庭での家庭科の調理実習の実施)

【生徒が提出したカードとムービー】

夏休み課題 教科書のレシピから、日常食の調理をしてみよう (教科書72p-73p 参考) 肉料理一品

料理名 豚の生姜焼き

レシピ詳細 (ウェブカード貼り付け済み)

調理中の様子 味付けがうまくいったのでよかったし、家族が美味しいと言ってくさる食べたかったです

調理中 (切る、焼く、味付け煮る) ムービー

提出したカードは、ICT端末を活用して共有しています。

家庭科では、コロナ禍による感染症対策のため、調理実習が実施できない時期があったため、学校で基礎を学んだ後、家庭における調理実習の課題を作成しました。

生徒は、学校で調理の計画を立て、その調理中の動画を行程に沿って保護者の方や家族に撮影をしてもらいました。また、作った料理を食べた感想を書いてもらっています。学校では提出した動画等を全員で共有し、感想を発表しました。

家庭科以外でも、理科の自由研究、音楽や美術の鑑賞の課題、国語の感想文作成、保体の運動動画作成等にICT端末の機能を活用して家庭学習に利用しています。

第5章 【ICTを活用した家庭学習】実践例

授業と家庭学習の連動を図るデジタルノートを活用した取組 ～高森町立高森中央小学校（高学年）～

- デジタルノート活用による家庭での調査活動（調べ学習）の実施
- 家庭学習における情報の共有

10/26 (水曜日)

た 食生活の変化と輸入食品の関係を考えよう。

か 教科書116, 117ページ 「わかったこと」

- ・洋食を食べることも増えて、日本の食生活が変わってきていることがわかるけど、そのことで日本の食料生産にどんな影響があるのか
- ・小麦など大豆は600万トン近く輸入されている
- ・米は一番少ないが100万トン近く輸入されている
- ・一番輸入が少ないものと一番輸入が多いものでは、500万トンの差がある
- ・1960年代から2019年にかけて米の一人当たりの食べる量がぐく変わってきている。
- ・魚介料はあまり激しく変わっていません。0.1キロカロリーしか減っていない
- ・食品ロスの削減 ……日本の年間の食品廃棄量は約2531万トンでそのうちの約600万トンは売れ残りや食べ残しなど。

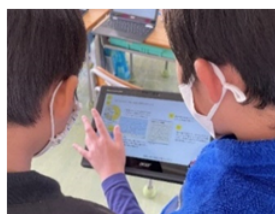
も 友達・全体の意見

食生活の変化
・和食→**洋食中心**
・日本人の好み
・米の消費量…減る
・小麦・畜産物…増える

輸入食品
・洋食に使う食品が輸入された

食生活が洋食中心になったことで、輸入する食品が増えた

り 今日は和食から洋食中心になったことや養殖に使う食品が輸入されることを知りました。私は和食が好きなので少し残念でした。



【児童のデジタルノートの例と授業の様子】

デジタルノートを活用することで、調べた情報を資料や写真などと関連付けながらノートにまとめています。コメント機能を使って意見を交換したり、分からないことを教え合ったりしながら、家庭学習の時でも協働的に学び合っています。授業で友達と交流する場面では、デジタルノートを使うことで、自分が説明したい資料や写真などを拡大して提示したり、レーザーポイント機能を使いながら分かりやすく説明したりする姿が見られています。全体発表の場面でも、すぐにノートを電子黒板に投影できるので、円滑に授業を進行することができています。また、家庭で調査活動や情報共有を行っているの、授業では、学習課題解決の話合いの時間の確保ができ、深い学びを実現する手立てとなっています。

第5章 【ICTを活用した家庭学習】実践例

授業と授業をつなぐ家庭学習 ～西原村立山西小学校～

- 体育科の器械運動における、授業と家庭学習でのICT端末の活用
(授業での自分の動きの動画撮影→家庭での課題分析→次の授業での解決)



【授業で撮影した動画から課題を分析する様子】

第2時では、取り組む技のポイントについて全体で確認し、練習しながら自分の動きを動画で記録します。

家庭では、撮影した動画等を見て自己の動きを分析し、課題と解決の仕方をシートにまとめます。

第3時では、導入において家庭でまとめたシートを基に個人のめあてをもちます。展開では、解決の仕方を意識しながら練習に取り組むようにします。

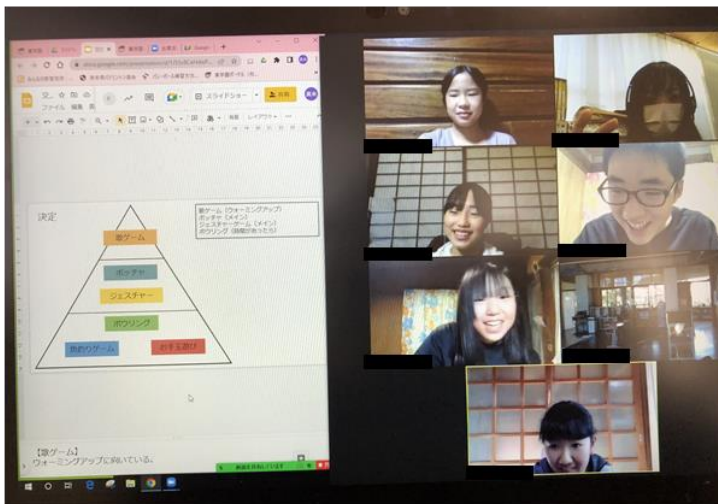
家庭での学びにより、動きを分析する時間や授業での運動量の確保につながります。また、個別最適な学びを促すこともできます。

第5章 【ICTを活用した家庭学習】実践例

高森ふるさと学（総合的な学習の時間）における、ICTを活用した授業と家庭での学びの連動

～高森町立高森東学園義務教育学校～

- デジタル化した単元計画や各種ワークシートを授業で活用し、クラウド上で管理
- クラウド上のデジタルシートを共有しながら、話し合いや協働編集の補充を家庭で行うオンライン会議



【家庭で行うオンライン会議の様子】

「持続可能な高森町」をテーマに5～9年生の異学年合同で5つのプロジェクトを立ち上げました。「福祉PJ」は、地域の方々との交流会を企画し、交流会で行うレクリエーションの内容について6つの提案を行いました。その中から実際に交流会で行う3つの内容に絞るためにピラミッドチャートを活用し、議論しています。

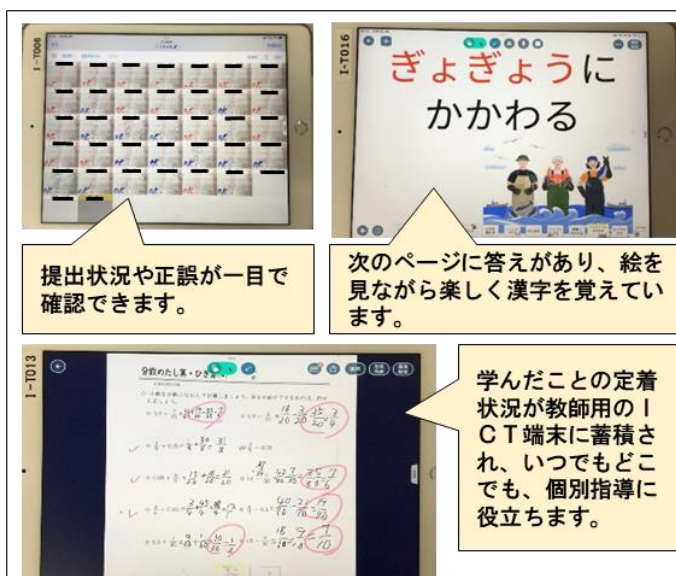
納得解を導き出すために、子供たちはオンライン会議の日程を学校で調整し、家庭でオンライン会議を実施しました。

授業と家庭での学びを連動させることで協働的な学びが家庭でも行われています。

第5章 【ICTを活用した家庭学習】実践例

学習内容の定着を図るために、1人1台端末を活用した家庭学習の取組
～益城町立飯野小学校～

- 学習支援ソフトを活用した、家庭学習課題の配付と回収、定着状況の確認
- 子供たちが取り組みやすい課題の準備



提出状況や正誤が一目で確認できます。

次のページに答えがあり、絵を見ながら楽しく漢字を覚えていきます。

学んだことの定着状況が教師用のICT端末に蓄積され、いつでもどこでも、個別指導に役立ちます。

【ICT端末を活用した家庭学習の様子】

ICT端末を活用した家庭学習の内容として

- その日に学んだことを確認する（定着を図る）ための課題
- いつでも学ぶことができる課題
- コロナ禍等において、学校でできない活動（動画の提出等）

などがあり、各学級において、担任を中心に効果的な課題を設定し、学力向上に向け取り組んでいます。

提出された課題は、教師の端末でいつでも確認ができ、指導に生かすことができます。

また、授業においても、ICT端末を効果的に活用し、子供たちも意欲的に取り組んでいます。

第5章 【ICTを活用した家庭学習】実践例

ICTを活用した家庭学習で既習内容の定着を図り、授業につなげる取組 ～ 八代市立文政小学校～

- 算数等の学習における、ICTを活用した家庭での既習内容の定着・確認
- 子供たちが既習内容を身に付けた状態で授業に臨むための、フォローアップ課題の提示と活用



①小6算数「分数×分数」「分数÷分数」の授業において、既習内容である「約分」の定着を図るため、本学習に入る前に「約分」の課題を配信します。

取組中	2 / 4	2 / 4	2 / 4	100%
提出済	0 / 4	4 / 4	4 / 4	93%
提出済	4 / 4	4 / 4	1 / 4	87%
提出済	4 / 4	4 / 4	4 / 4	83%

②教師が設定した点数に到達していない場合は、フォローアップ課題や確認テストが配信されるため、児童は動画を視聴したり、自分で調べたりしながら課題に取り組みます。

③教師は、提出状況一覧により児童の正答率と誤答の傾向を確認し、支援が必要な児童に、授業の中で重点的に関わることができます。算数を苦手とする児童の理解力の向上につながり、課題にも積極的に取り組む姿勢が見られるようになりました。

第5章 【ICTを活用した家庭学習】実践例

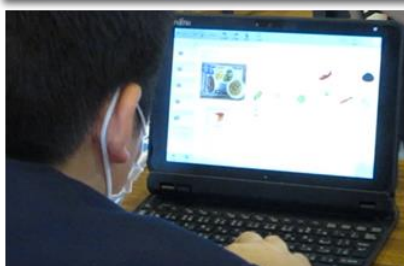
ICT端末を活用した家庭学習の推進を図る取組 ～ 氷川町立竜北西部小学校～

- 子供たちの実態に応じた、ICT端末の機能を活用した家庭学習

①学習支援ソフトの活用



②デジタル教科書の活用



①学習支援ソフトの活用

課題プリントの解答や自主学習ノートの参考例などを配付し、家庭学習の推進を図っている。

②英語のデジタル教科書の活用

デジタル教科書を活用して、家庭でも発音練習を行っている。

③デジタルドリルの学習

デジタルドリルを活用することで授業内容の定着を図っている。

④継続的なタイピング練習

家庭学習で取り組むことで、情報活用能力の向上につながっている。

③デジタルドリルの学習



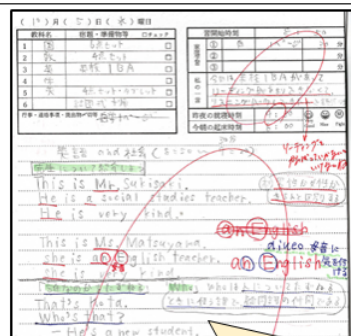
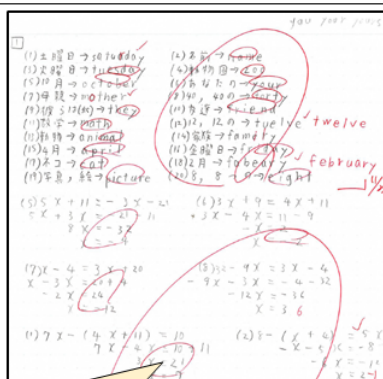
④継続的なタイピング練習



第5章 【ICTを活用した家庭学習】実践例

ICTを活用した県学調の「確かめドリル」等の活用と自主学習の取組 ～八代市立第一中学校～

○県学調の「確かめドリル」や「フォローアップシート」のICT端末への取り込みと活用
○自分の理解度に応じて、生徒が自ら課題を選択する自主学習の取組



①学習支援ソフトを利用して、PDF化した県学調の確かめドリルやフォローアップシートをICT端末に取り込み、いつでも活用できるようにしました。

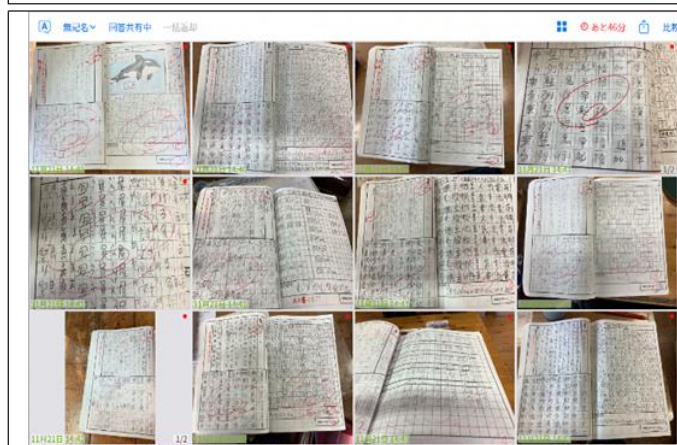
②生徒は、理解度に応じて課題を選択し、ICT端末上で開き、朝自習や家庭学習で自学ノートに書き、答え合わせ等を行い、担任へノートを提出します。

③生活ノートと家庭学習の見取りをまとめてできるように、それらを一体化したシートを作成し、一定期間実践しました。家庭学習の計画と実施状況をまとめて見取ることができます。

第5章 【ICTを活用した家庭学習】実践例

ICTを活用し家庭学習ノートを共有する取組 ～芦北町立佐敷小学校～

○ICTを活用して子供が互いの家庭学習ノートを見合う時間の設定



【ICT端末の画面に共有された家庭学習ノート】

子供同士でお互いの家庭学習ノートを見合って学び合ったり、認め合ったりする機会を設けるために、学習支援ソフトの課題提出機能を活用し、児童間で共有する取組を行っています。子供が更なる問いを見つけるきっかけにもなっています。

また、子供同士でアドバイスを出し合ったり、質問したりする様子も見られ、子供のやる気を引き出すことができるとともに、学びの質の高まりにつながっています。

第5章 【ICTを活用した家庭学習】実践例

ICT端末持ち帰りによるドリル学習の取組 ～あさぎり町立岡原小学校～

- ICT端末を持ち帰ってのドリル学習による家庭学習の習慣化と学習内容の定着
- デジタルドリルの採点機能を利用することによる担任の業務負担軽減



【ICT端末を持ち帰っての家庭学習】

週1回、デジタルドリルの問題を学校でダウンロードし、家庭学習として取り組んでいます。

採点が自動化されるアプリの機能により、児童は自分がどこでつまづいたかをすぐに確認ができます。児童からも「やる気がでる」「よく分かる」と大変好評です。

また、児童のデジタルドリルの達成状況は、学校で担任がすぐに把握することが可能で、授業へのフィードバックにもつながっています。

全児童の解答状況を把握し、学習状況の実態を図るための手段の一つとして役立てています。

第5章 【ICTを活用した家庭学習】実践例

ICT端末を活用した「学びをつなげる家庭学習」への取組 ～天草市立河浦小学校～

- 家庭での、ICT端末を活用した授業（話し合い活動）の事前準備
- 家庭で撮影した動画（音読やリコーダーの練習）を用いた、授業中の交流

【社会科の授業の様子】



次のことを表にまとめてみましょう。
教科書P148～149や資料集を参考にしてみましょう。

輸出と輸入の輸送手段は？

また、それぞれの輸送手段の長所と短所は？

輸送手段	長所	短所
船	一度に大量に荷物を運ぶことができる	航空機より時間がかかる
航空機	小型の荷物を短時間で運べる	費用がかかる
トラック	荷物の積み込みがしやすい	道路がごみと遅れるかもしれない
鉄道	決められた時間どおりに荷物を運べる	線路が敷かれた場所しか運べない

授業時間内には話し合い活動に集中できるように、児童は家庭学習でICT端末を用いて事前準備をしておきます。その際、着目した部分に印をつけておくことで、授業中に資料をそのまま提示して話すことができます。

また、音読の様子やリコーダーの練習を家庭で撮影し、それを見返して気を付けるポイントを出し合うこともあります。

このように、「学びをつなげる家庭学習」の促進のため、ICT端末で課題の工夫を行っています。

社会科「日本の工業生産の貿易と運輸」の授業で、輸送手段についてのメリット・デメリットを表にまとめている様子です。家庭で事前に見て、着目した部分に印をつけた資料を、授業でそのまま提示して、話し合い活動を行っています。